

# 強者の戦略

【解答】

【東大】

- (1) **A**ーモロッコ **B**ー南アフリカ  
**C**ーナイジェリア
- (2) **A**国は旧宗主国や距離の近接するヨーロッパ諸国が主で、**B**国は豊富な鉱産資源を工業発展に使用したい先進国が主となっている。(59字)
- (3) 原油の輸出が主であるが、その利益は関連企業や政府高官に集中して市民との格差が拡大し、紛争・治安悪化につながっている。(58字)
- (4) 中国が紛争国にも進出し関係を深め、またアフリカ諸国の経済水準の向上により安価な中国製品を多く購入するようになったため。(59字)

【京大】

産業の未発達地域で銅やコバルトが存在し、中国の援助により東部の輸出港への鉄道が建設されたため。(47字)

【一橋大】

サバナ気候下で河川流量が一定せず、沿岸での急崖の航行も難しいため河川輸送は難しい。また、鉄道が港に直結していないため、鉄道と道路を組み合わせた輸送手段しかなく、一貫輸送できる南部ルートが有利なため。(99字)

解説

「スマホやめますか、それとも信大生やめますか」という信州大学の学長の発言が世間でよく取り上げられるようになりました。ある程度ガラケーからスマホへの交換が進み、しかもスマホが高性能になってきて、依存する人が増えてきた時代背景を見事に捉えた意見だと思います。恐らくスマホの正しい使い方は「適度に使う」なんだと思います。災害情報をすぐに受け取ることもできますし、すぐに自分の病状を調べ病院に行くかどうかの判断も以前よりはやりやすくなっていると思います。他方、ツイッ

ターにはまれば一瞬で膨大な時間が失われるし、ゲームにはまっても同じように時間が失われます。電車に乗ってたまに車内を見渡した時に、8割ぐらいの人がスマホをいじっていて、かなり違和感を持ちました。何かスマホに支配されている感じですよ(笑)。受験生のみなさんは、人生狂わせない程度にスマホを使ってってください。

それではアフリカの解説に参りましょう！

【東大】

- (1) モロッコを**A**と判断するのは簡単だと思います。**モロッコの旧宗主国はフランス**であり、輸出額が高いことは想像しやすく、また、距離の近接しているスペインへの輸出額も高いことから判断できたと思います。難しいのは南アフリカとナイジェリアですね。一つの判断基準としては、**B**国の貿易相手国上位に日本が入っていることです。日本を起点に考えると、ナイジェリアから輸出輸入するよりも南アフリカから輸出輸入した方が距離が近接していて輸送費も安くなるので、やはり**B**国は南アフリカと考えたいところです。逆に**B**国をナイジェリアと考えると、ナイジェリアの輸入相手国上位にサウジアラビアが入ることになります。ナイジェリアの輸出金額の上位は原油であり、サウジアラビアの主要な輸出品も原油です。原油を持っている国が原油を大量に輸入することもあまり考えにくいので(アメリカ合衆国などは例外ですが)、やはり**B**国が南アフリカ、**C**国はナイジェリアとなります。
- (2) **A**国に関しては書きやすいかなと思います。先ほども書きましたが、モロッコとフランス・スペインの関係は緊密です。モロッコの出稼ぎ労働者の多くが両国に向かっているぐらいです。**B**国の書き方がやや難しいですね。南アフリカの輸出金額上位品目を頭に描き、そしてそれらを中国・アメリカ合衆国・日本・ドイツなどに結びつけて書くという点をクリアしなければなりません。まず、

# 強者の戦略

輸出金額上位品目を挙げると、1位**金(非貨幣用)**、2位**白金族**、3位**機械類**、4位**自動車**、5位が**鉄鉱石**となっています。機械類や自動車などはアメリカ合衆国、日本でも生産できるので、鉱産資源が先進国に向かっていると考えられます。ただ、先進国だけではなく中国が上位である点を書きにくさを助長していると思います。正確に記すとすると、「豊富な鉱産資源を先進国および経済成長国に輸出している」となり、中国とインドを含めることができますが、2行問題なので文字数的に厳しくなります。ここは、模範解答のように「先進国が主となっている」程度の表現で逃げることにしましょう。

- (3) **C**国がナイジェリアと判断できること、ナイジェリアの輸出金額上位品目が原油であること、この2点をクリアする実力があることが前提ですが、解答を書くにはさらに思考を働かせなければなりません。輸出額が多くて輸入額が低いことが、経済・社会発展上のどういう課題につながっているかを考えます。ここではある程度ナイジェリアの背景知識が必要になりますね。

ナイジェリアはもともとパーム油やカカオなどを主要な輸出品としていた国でしたが、1960年代頃に原油輸出が軌道に乗り始めると、ニジェールデルタ地帯は農業地帯から原油地帯へと変貌しました。今のニジェール川一帯は原油のパイプラインが血管のように隅々まで広がっています。ところが、この付近に住んでいる人は原油輸出の恩恵に与ることができません。大半の利益は政府高官や外国の石油企業(中国など)の職員などに充当され、一般市民との格差が広がっています。購買能力を失った市民は、外国からの食料も買えなくなる人もいます。この結果、貧しい者が豊かな者を襲うことが増えて治安が悪化しています。さらには、反政府武装勢力(最大部族イジョー族)などがニジェールデルタの油田地帯を攻撃するテロなども発生しています。ここまでの事情までは

分からなくても良いと思いますので、「**原油の利益が一部に集中→格差が拡大→治安悪化**」という流れはしっかり書きたいところです。

- (4) この問題もなかなか書きにくいですねー。基本的な考え方は、「**アフリカ諸国が経済成長を遂げる→購買力が上がる→安価な中国産の機械類などを輸入するようになる**」という流れで十分かと思います。でも、それだけじゃないですよ。基本的に、欧米諸国は紛争をしている国などへの援助には後ろ向きです。自分の援助した金額で武器が購入され、紛争を激化させる可能性もあります。また気候的にも熱帯地域や乾燥地域が広がっていて、奥地まで進出する企業は多くはありません。その隙間を埋めているのが中国です。中国はレアメタル、一般的な鉱産資源、原油などをアフリカ諸国から輸入するために、紛争地域であっても、奥地であっても援助・進出をしてきました。こうして関係を深めているからこそ、中国産の機械類を輸入する流れになっているはずですよ。ここを短い文字数で何とか示したのが模範解答になっています。ちょっと他の受験生と差を付けた攻めの答案になっています。

## 【京大】

東大の問題から引き続き、アフリカの資源と中国が絡んだ問題です。どうも今年のトレンドだったようです。今回は「1970年代以降」という指定があります。コンゴ川(**F**)とザンベジ川(**G**)の中間地帯であるシャバ州の銅地帯からタンザニアのダルエスサラームまで敷かれているタンザン鉄道が中国の資金援助によって建設されたことを明確にすべきでしょう。この鉄道の建設によって世界への輸出の道が開かれたので鉱業が発展したと考えられます。また、別のアプローチから考えれば、内陸の奥地で他に大して目立った産業がなかったのが、鉱業が発達したと考えることもできます。なお、今回の問題では「鉱業」が主眼となっているので述べる必要はないと思いま

# 強者の戦略

すが、精銅産業も後に発展したことは知っていますか？付近を流れるザンベジ川に**カリバダム**を建設し、そこで得た電力を用いて精銅産業も発展しました。入試知識ですので知っておきましょう。

## 【一橋大 改題】

京大の問題から引き続き、コンゴ民主共和国とザンビアとの間の銅地帯(カッパーベルト)の問題です。一橋大らしい図を利用した思考問題です。かつて、ナイジェリアの中の鉄道や道路を示した同様の出題もありました。こういうインフラと資源を結びつけた問題は一橋大頻出です。

問題の骨子は「なぜコンゴ民主共和国は自国の港から輸出しないのか？」ということです。ここでは距離は関係ありません。西部のマタディ港に輸送しようが南部のダーバン港に輸送しようが大差はありません。違う要因を考慮していきます。ちゃんと図を見ていた人は、マタディ港のすぐ北側の滝の記号に気付いたはずですが、普通ありえないですよ、こんな一般的な地図に地図記号の滝の記号が描かれているなんて。ちょっと衝撃を受けましたが、この記号に気付けば、「西部の沿岸で滝が見られるため鉱産資源の河川輸送が厳しい」という述べ方ができることとなります。ここから気候の知識に結びつけて、「**サバナ気候は雨季と乾季が明瞭で季節による流量変化が激しく、また、沿岸の滝の航行が難しいため河川輸送に適さない**」という述べ方に落ち着きます。

ただ、文字数的にはまだ足りない感じです。何か欠けているのです。もう少しよく鉄道と主要道路を確かめます。すると、シャバ州から出ている鉄道は国土中央のイレポで止まっていることに気がきます。ここから西には主要道路がキンシャサまで敷かれています。さらに鉄道を使えばマタディ港までたどり着けます。つまり、鉄道→道路→鉄道に乗り継がなければ輸出できないルートになります。これは面倒くさいですね。このルートに比べて、タンザ

ン鉄道を使えばダルエスサラームから、ザンビア鉄道を使えばダーバン港から乗り継ぎ無しで輸出することが可能そうです。前半部分と後半部分をまとめれば模範解答が出来上がります。

今回はどんな問題になるか分かりませんが、またお会いしましょう！